



豊かな心を育む～生命の不思議さや尊さに触れて～

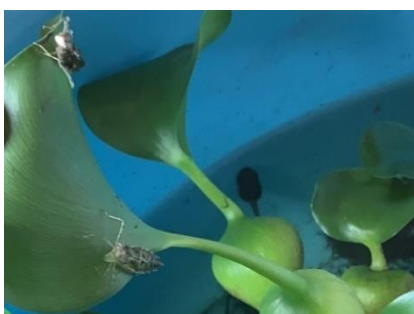
園長 本多 郁代

プール清掃の前に、プールからオタマジャクシやヤゴをすくい上げ、大きなたらいに移し幼稚園の玄関に置いておきました。すると、生き物に興味のある子どもたちが、たらいの中を時々覗き込んで、「あっ、足がはえてる!」「えっ、どこ?」「ほら、ここ!」「ホントだ!!」「昨日はなかったよね。」と、子ども同士オタマジャクシを指さしながら発見した喜びを嬉しそうに話す姿が見られます。



先日は、ヤゴがホテイアオイに登って幼稚園の園舎内で羽化をしました。残念ながら羽化の瞬間は誰も見ることはできませんでしたが、明らかに飛び方がおぼつかない様子で、羽を広げて乾かしながら飛ぶ練習をしているようでした。その姿に気付いた子どもたちは、目が釘付けになりトンボの動きを見守っています。すると、どこからか「トンボさん、がんばれ～」と、応援する声が聞こえてきました。短い距離を飛んでは靴箱に止まり、しばらくじっとしていたかと思うと、高い窓の桟まで飛んでまた止まる姿に、子どもなりに自分の姿を重ねていたのでしょうか。

また、別の子どもは、ヤゴの背中が割れていたことに驚きを隠せません。「こんなに小



さいところからあのトンボさんが出てきたんだよ。」と伝え、頭の中は「??? (はてな)」でいっぱいになったのでしょうか。背の割れた抜け殻に、くつつくのではないかと思います。顔を近づけてじっと見つめていました。あんなに大きなドンボの体がどうやって入っていたのか不思議で仕方がないという表情でした。

幼児期から、身近な生き物に触れて感動する体験はとても大切です。各保育室でも、子どもたちは生き物との触れ合いを通して、様々な発見や気づきに心を躍らせている毎日です。このような体験を通して、子どもたちは、生命の不思議さや生命の尊さに気づき、命あるものを粗末に扱うことなく、愛情をもってかわるようになります。

長い夏休みがやってきます。今度はご家庭での様々な体験を通して、豊かな心を育てていただきたいと思います。1学期が無事終了しました。これまでの保護者の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。